

ネットワークアンケート ②6

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 貴院では、糖尿病患者さんの診断初期に、糖尿病の基礎や療養生活に関する説明や指導を行っていますか？

患者さんに対する糖尿病教育のなかでも、診断初期(概ね3カ月以内)は特に重要という声が多く聞かれます。いわゆる「糖尿病教室」や「教育入院」等、患者さんの治療方法や医療機関の環境などによって、その内容は様々ではないでしょうか。今回は、その現状についてお伺いしました。

[回答数：医療スタッフ86名(医師27、看護師25、准看護師1、管理栄養士14、薬剤師9、臨床検査技師6、その他3。うち日本糖尿病療養指導士23)、患者さんやその家族312名(病態/1型糖尿病124、2型糖尿病178、糖尿病境界型6、その他4、診断初期に通院していた医療機関/大学病院13%、総合病院56%、糖尿病専門の診療所12%、一般の診療所13%、その他6%)]

約9割の医療スタッフが「はい」と答え、その87%が「基本的に患者さん全員」に行っているとのことでした。スタイルとしては、個別指導が87%、グループ指導は54%、教育入院は55%、資料配付は71%(複数回答可)。これらの説明や指導に対して、半数強の医療スタッフが「基本的には十分」とするものの、「足りない」と感じている方が半数弱と、微妙な心境がうかがえます。

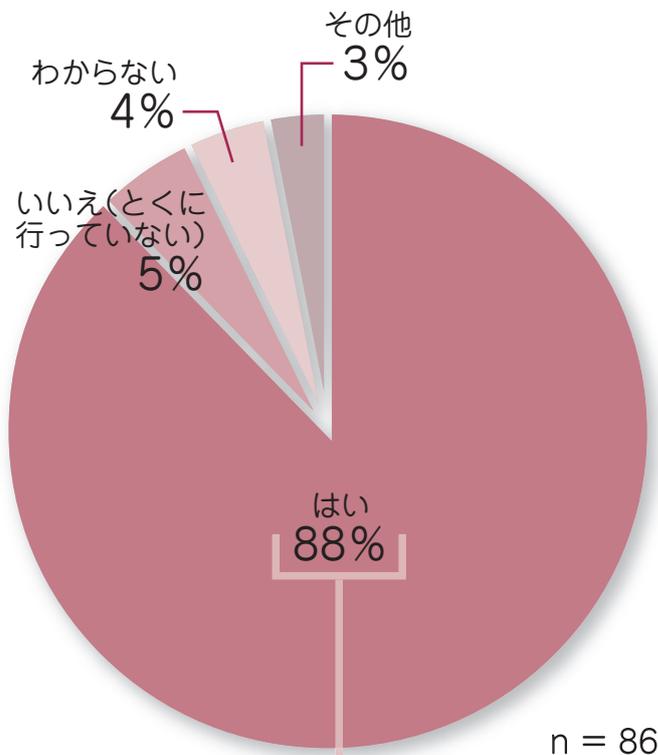
また、教育入院について尋ねてみると、

Q. 「教育入院」は、どの位の期間が妥当だと思いますか？ (n=86)

1時間未満	2%
1~3時間以内	2%
約半日	1%
約1日(日帰り)	0%
2~3日間(入院)	14%
3~7日間(入院)	36%
8~10日間(入院)	18%
11~14日間(入院)	21%
2週間以上(入院)	4%
その他	2%

93%の方が教育入院による血糖コントロールの改善効果を実感しているようです。入院期間は1泊2日~4週間コースまで医療機関によって様々で、2泊3日や2週間が比較的多くみられました。さらに、盛り込むべきカリキュラムや労力、経費、現実的な参加率などを考慮すると、どの位の期間が妥当かを伺うと、最も多かったのは3~7日(36%)でした。

自由記述では、「診断初期は全員まずは専門医のいる施設で教育を受け、その後のフォローを一般医で行うべきでは」「信頼関係作りは治療にも影響するので、初期介入は大変重要」「他院からの紹介で教育入院に入り通院先へ戻る方も多いが、その後の経過がわからない。病診連携、施設間での教育評価システムができていない」等の声が寄せられました。



Q. 説明や指導の内容は十分だと思いますか？

